

カナダのエネルギー事情

カナダは比較的豊富にエネルギー資源に恵まれているが、その分布は州や地域によって大きく異なる。したがって、長期にわたって満足し得るエネルギー供給の均衡を図るためには、いかなる方法で利益と負担を分担していくべきかという世界的な問題を、カナダも国内に抱えているわけである。カナダにおけるエネルギー消費量の上昇率は近年鈍化し、一九六〇年—一九七五年の年率五・一パー

セントから一九七七年には二・八パーセント、一九七八年には三・五パーセントへと下落した。しかし、一人当りのエネルギー消費量では、カナダは世界でも最高の部類に入る。一九七八年のカナダにおけるエネルギー消費額は二百二十億ドルで、国民総所得（GNP）の一〇パーセントに相当する。エネルギー消費量の一五パーセントは輸入原油であるが、エネルギー全体で見ると、カナダは純輸出

キャンドウ型原子炉の熱交換装置

国である。

エネルギー生産

一九七八年におけるカナダの通常原油および非常原油の生産高（原油換算）は、平均日産で百五十八万バレル。一九七七年と比べて、一・九パーセントの減少である。天然ガスの総生産量も、五・五パーセント減つて十九億立方フィートとなった。電力生産量は三千三百六十億キロワット時へ増えた。その内訳は、水力七〇パーセント、化石燃料二一パーセント、原子力九パーセントの割合であった。昨年のカナダのエネルギー総生産量は、九千六十兆B.T.U. 原油換算で、一億八千万バレルに相当する。

カナダの石油・天然ガスの確認埋蔵量は、大半が西部の堆積層盆地に存在している。主にアルバータ州だが、サスカチュワン州とプリティッシュユ・コロンビア州の一部にもまたがっている。天然ガスと通常石油が将来において有望視されているのは、辺境地域、すなわち北極地方とカナダ東岸沖である。特に有望視されているのは天然ガスであるが、大量の埋蔵量が発見されるとしても、それらを開発するには大変な困難と費用を伴うものと思われる。したがって、短期的な供給増加分は、主としてカナダ西部に求められることになろう。

通常原油のほか、カナダは特殊な石油資源を有しており、この方面における将来の可能性は大きい。その最大のもは、アサバスカ（アルバータ州）のオイルサ

ンドで、推定総埋蔵量約千二百五十億立方メートル（約八千億バレル）は、世界でも屈指の石油資源である。しかしながら、実際にこれから採油を行うには相当な技術的困難を伴うだけでなく、開発コストも大きい。現在は、必要な技術開発に大規模に取り組んでいる段階である。少量の原油が現在すでに生産されているが、大規模な生産は、今後の開発に待たねばならない。

石油資源は、北極地方などカナダ各地に存在している。最近行われた埋蔵量評価によれば、西部カナダが全体の約九九パーセントを占め、残りはオンタリオ州と大西洋沿岸諸州にある。北極地方の石炭資源は、まだ正確な評価が行われていない。各沿岸の探査計画が現在実施されているが、中でもプリティッシュユ・コロンビア州北東部では活発な資源探査が行われている。

ウラン資源はカナダ各地で発見されているが、実際に生産が行われているのは、オンタリオ州とサスカチュワン州、それに北西準州だけである。最も豊富なのはヒューロン湖北岸近くのオンタリオ州エリオット・レイク地方で、ここは一九五〇年代初頭から採鉱が行われている。ウランの採鉱は、ここ数年著しく活発になり、ほぼ全部の州あるいは準州で探査が行われている。

カナダでは、電力供給源として、水力、石炭、石油、天然ガス、原子力と、いろいろなものが利用されている。カナダではほとんどあらゆる地域で水力資源が豊